

七五三水の桑名の橋わたる

藤田湘子

平成三年、東海地区指導句会の翌日、吟行で初めて訪れた桑名で、湘子は七五三の親子に出合った。

桑名は、東海道五十三次の唯一の海路であった「七里の渡し」の桑名宿のあった所。また、芭蕉が『奥の細道』の旅を終え、伊勢二見ヶ浦へ舟で向かい、最初に立ち寄った港が桑名。湘子の胸にそれやこれやが去来して「水の桑名」という挨拶の措辞を得たのかもしれない。

神社で七五三の親子に合うと、晴れやかで幸せな気分になる。小さな子供たちに幸あれと思う。正装がもたらす厳かで清新な空気の賜であろう。たまたま居合わせた者でも感慨深い。「あつ、七五三」と思った時、必ずと言つていいほど、掲句の名調子を思い出す。

1991年（53作）第九句集『前夜』 鑑賞・野本京